

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
一般	03	02	03	134620	はなまきファミリーサポートセンター事業		
総合計画	分野	人づくり					
	政策	3-1	子育て環境の充実				
	施策	1	子育て支援の充実				
目的	有償ボランティアによる児童のあずかり・送迎等、会員相互の援助活動を推進する						
対象	生後3か月から小学6年生までの児童を有する家庭						
意図	子育て家庭の負担の軽減を図る						
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること							
<input type="checkbox"/> 会員募集・登録その他の会員組織業務 <input type="checkbox"/> センターの周知・啓発活動（市広報、FMはなまき、ホームページ、「はじめまして」広報紙） <input type="checkbox"/> 相互援助活動の調整等 <input type="checkbox"/> サブリーダー会議（月1回）の運営 <input type="checkbox"/> あずかり会員、両方会員への講習会の実施 <input type="checkbox"/> 会員の交流会の開催 <input type="checkbox"/> 会報紙発行（おねがい会員、あずかり会員に配布）							
市民参画の有無 [対象外]							
市民協働の形態		共催		実行委員会・協議会		事業協力・協定	
		後援・協賛		補助・助成		委託	
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
①	あずかり会員講習会の実施	時間	計画	24	24		
			実績	26	24		
②	交流会の実施	回	計画	1	1		
			実績	1	1		
③			計画				
			実績				
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)	
①	利用件数	件	目標	2,300	1,800		
			実績	1,659	1,863		
②			目標				
			実績				
③			目標				
			実績				
成果指標の達成度	目標値より高い		<input type="radio"/>	概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
登録いただいているあずかり会員は220名であるが、あずかり会員が車を所有していなかったり、遠距離送迎の難しさやあずかり会員の就労などもあり、1回以上活動を行った会員は48名である。おねがい会員の需要は減らないと考えられるので、アドバイザーの調整が難しくなっている。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	国のファミリー・サポート・センター事業要綱により、市町村に1か所の設置となっており、市町村に対して交付金が交付される。事業内容が、有償ボランティア事業のコーディネーター等であることから、市での関与が必要である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	成果の向上余地	核家族化や共働きなどが進むなか、本事業のニーズは増えていく。様々なケースのあずかりが出てきているが、支援することで子育て負担の軽減になっている。この事業の認知度をさらに広め、あずかり会員を増やしていくことが成果につながるの向上余地がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業費の8割近くは人件費である。非常勤2名で対応しているが、年々対応件数も増えており人員及び予算の削減は難しい。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	受益と負担の適正化余地	市内全域に対応した事業であり、受益機会は均等である。また子育てや子育て支援の重要性から鑑み、誰でもが気軽に利用できる制度とするため、これ以上の費用負担は望ましくない。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
<input type="radio"/> 適正である		
総合評価 …上記評価結果の総括		
核家族化や共働きなどが進む中、就労している親にとってはやり繰りの一つとして、子育てしやすい生活環境の手助けになっている。おねがい会員のおねがい内容が年々変化し、習い事への送迎が増えてきている。 あずかり会員の自分の空いた時間を有効活用し、地域の子育てに役立っている。 <input type="checkbox"/>		

平成 28 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-T	事業名
一般	03	02	03	134620	はなまきファミリーサポートセンター事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		5,435	5,395		△ 40
財源内訳	国・県	2,906	2,906		
	地方債				
	その他				
	一般財源	2,529	2,489		△ 40

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標

子育て支援の充実と子育てしやすい環境づくり

事業開始の背景・経緯

子育て中の家庭で、保育園への送迎や土・日に預けたい時などに、サポートしてくれる人がほしいという要望から、平成13年7月に国の制度を利用し「はなまきファミリー・サポート・センター」が設置された。その後、平成19年度にこどもセンター開設に伴い併設となった。

事業概要

- 会員募集・登録その他の会員組織業務
- センターの周知・啓発活動（市広報、FMはなまき、ホームページ、「はじめまして」広報紙）
- 相互援助活動の調整等
- サプリーダ会議（月1回）の運営
- あずかり会員、両方会員への講習会の実施
- 会員の交流会の開催
- 会報紙発行（おねがい会員、あずかり会員に配布）

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

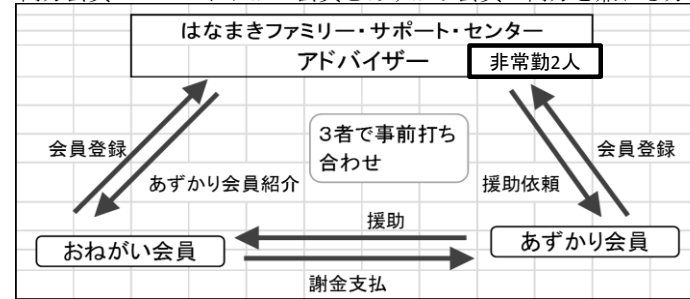
- ・会員の就労や就労形態の多様化などにより、援助活動前の顔合わせ(打ち合わせ)が、土日に行われたり、会員宅への訪問する機会が増え、利用件数に対してアドバイザーの対応する件数が増えている。
- ・相互の援助活動を、安心して安全に行えるよう講習会を継続実施するとともに、受講することを勧奨していく。

担当部署 部名 教育部 課名 こども課 担当係長 北山郁代 内線 7-213 (単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】

○会員制による有償ボランティア子育てサポート事業

- ・おねがい会員・・・市内在住、もしくは市内にお勤めで生後3か月から小学6年生以下の子どもの保護者の方
- ・あずかり会員・・・市内在住の方、自宅でお子様をあずかる方
- ・両方会員・・・おねがい会員とあずかり会員の両方を兼ねる方



会員数

	おねがい会員	あずかり会員	両方会員	合計
H26	715人	155人	63人	933人
H27	727人	161人	57人	945人
H28	694人	190人	27人	911人

利用件数等

	利用件数	予約件数	キャンセル数	対応件数
H26	2,411	2,685	274	4,635
H27	1,659	1,938	279	5,199
H28	1,863	2,133	270	5,179

主なあずかり内容

- ・保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり
- ・保護者の外出の際の援助
- ・学童保育の迎え及び帰宅後の預かり
- ・保育所・学校等の休みのときの援助
- ・こどもの習い事等の場合の援助

利用料金等（1時間当たり：おねがい会員からあずかり会員への支払い金額）

平日基本時間 8:00～19:00	基本時間外	土・日・祝日	病後児保育
500円	600円	600円	700円

事業費

人件費：4,353千円：アドバイザー2名（非常勤）、臨時補助員（月1日）
※土日対応や対応件数が増え今後も増加が見込まれることからパートを雇用。
会報「トライアングル」年2回発行印刷、251千円
講師謝礼、保険料等 791千円

根拠法令：児童福祉法第6条の3第14項 / 子ども・子育て支援法第59条第12号
要綱：子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポートセンター事業）
(H26.5.29付け雇児発0529第17号厚生労働省雇用均等・児童家庭局長通知)